

米づくりは古くから日本人の生業。「人と田んぼ」は切っても切れない深い結びつきがあります。ところが、今はお米の消費量に陰りが見え始めたといひ、講師の先生曰く「朝ご飯が朝ごはんになっている」。当教室の試みは、そうした米食離れに一石を投じるものです。

「田植え」「メダカすくい」「稲刈り」をひとくくりにシーズンを通して活動し、四季折々の田んぼの風情に身をゆだねながら、実のある時を過ごします。



初夏の田植え。生長すれば「米1粒が1000粒に」と教わり、せっせと「手植え」に勤しむ子どもたちの姿が印象的でした。夏は「メダカすくい」。色とりどり約

400匹を田んぼに放流。稲の間を縫うように泳ぐメダカを必死になって追いかけてました。そして秋は待ちに待った「稲刈り」。鎌で刈り取りハゼかけをする古くからの手法を体験。お米が食卓に上るまでの過程や、生産者の苦労を目の当たりにし、感謝の気持ちや自然を大切にする心を膨らませることができました。

古から日本の文化を形作ってきた米づくり。「人と田んぼ」の深い縁を、これからも守り育てていきたいものです。



▲表土除去状況



▲作業風景



炉状の遺構

平成26年 発掘調査レポート
(田縫遺跡・大迫A遺跡・大迫B遺跡)
中西地区の田縫遺跡・大迫A遺跡・大迫B遺跡は中西自治会と大國木自治会が接する辺り、県道光柳井線の南側に所在しています。
田縫遺跡は、石でできた削器とみられる道具や矢じり、縄文時代晩期の土器を含む土器、骨（種類は特定できていない）が確認された炉状の遺構、中世の土師器皿が柱穴から出土した掘立柱建物1棟などが確認され、縄文・鎌倉時代の遺跡であるとみられます。
大迫A遺跡は掘立柱建物が1棟、中世の土器



シリーズ③

文化財

を複数含む溝状遺構などが確認されました。石でできた矢じりや弥生式土器なども確認しましたが、出土土器の状況などから鎌倉時代以降の遺跡であるとみられます。
大迫B遺跡は、17個の柱穴状遺構や8基の溝状遺構が確認されましたが、明確な時期や性格のわかる遺構はありません。遺物包含層からは、中世の土師器、瓦質土器、土師質土器、青磁、白磁などが多く出土しました。
今回の発掘調査で確認できた遺構、遺物は今後精査することによりありますが、この地域の歴史を知るうえで重要な資料となると考えられます。

◇問合せ先
社会教育課文化財調査室
☎25・3185



デザイン：石ノ森 章太郎
生涯学習のマスコット「マナビィ」

NO.267

私とウォーキングのかかわりは、スポーツクラブの事務局の人に、ウォーキングの指導員の講習会があるけど一緒に行こうと誘われて参加したのがきっかけでした。



講習会で学んだ事は、両腕を曲げ肩甲骨が動くように前後に腕を振り、視線は景色を楽しむように先を見て、つま先でけりだし、踵で着地。足の付け根から腰全体を使って前に出し、日頃の歩幅より大きく、目標70cm（私の足では、少しきつい・・・）なおかつ、速く歩く、1km10分を目標にということでした。

家に帰ってから、時間がある時にやってみるがなかなか続かない、途中で向こう脛のあたりが痛くなる。腕の振りも小さくなる。それでも続けていると、だんだんと歩けるようになりました。今では、少々距離は大丈夫になりました。



健康に関心が高い現代において、いつでもどこでも容易に取り組むことができるウォーキングについて、スポーツ推進委員や田布施スポーツクラブ会長をしておられる鳥越さんに語っていただきました。

我が町スポーツ“ウォーキング”



八和田自治会 鳥越 昭次（しょうじ）

今、町では「我が町のスポーツ推進事業」として、人の基本動作である歩くことを取り上げ、一人でも多くの人が歩くことを通じて健康な毎日を過ごすことができたらし、ウォーキングに取り組んでいます。車社会の今日、通いながれた道を歩いてみてください。ちょっと違った発見ができると思います。



私も仲間たちと作った、魅力再発見ウォーキングマップコースを月に一、二度参加者を募り歩いています。1月は、19日の午前8時30分から、麻郷公民館をスタートするコースを歩きます。興味のある人はご参加ください。

みんなで楽しく歩きましょう。お待ちしております。